

## ○委員長

ただいまから、第9回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

新年度のお忙しい中、また、暑い中お越しくださいませありがとうございます。リモートのお二方も御参加くださり、ありがとうございます。

委員会は、残り4回となります。昨年度末にワーキンググループ（以下WG）を開催しまして、この残り4回の議論の仕方や報告書のまとめ方等を検討しました。その結果、今日は皆様と共有したい点がいくつかございますので、その点について御意見をいただきまして、御了承いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会の次第について確認をします。

最初に事務局から、令和6年度社会教育課所管事業についての説明を行います。続きまして、第8回社会教育委員会と、3月末に開催された第3回WGの開催結果を報告いたします。それを共有していただいた後に協議に入りまして、事務局から報告書の骨子案等の説明を受けた上で、皆様から御意見をいただければと思っております。

今回の報告書では、この審議題に関わるチェックシートを皆さんに提案しようということにし、本日はそのチェックシートについて、いろいろ御意見を伺いたいと考えております。委員の皆様の御協力の下、御意見をいただきながら、円滑に会を進めていきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

はじめに、令和6年度社会教育課所管事業について、事務局より説明をお願いします。

## ○事務局

「令和6年度 教育行政の基本方針と教育予算」の社会教育関連事業について御説明いたします。

静岡県教育委員会では、社会全体のウェルビーイングを目指し、他者と協調して新たな価値を創造する力の育成に向け、学校・家庭・地域の連携・協働の下、以下の取組を重点的に推進してまいります。

昨年度は、全ての子供たちのウェルビーイングを目指すとしていましたが、今年度は、子供を含め、社会全体のウェルビーイングへと変更しています。特に、誰一人取り残さない教育を実現するため、新たな時代を見据えた学びの変革や、個に応じた多様な学びの場の確保、教職員や児童生徒の人権意識の醸成に重点的に取り組み、本県の未来を担う「有徳の人」を社会総がかりで育成していきます。誰一人取り残さない教育の実現のための方策として、学びの変革や多様な学びの場の確保が挙げられました。

これらの基本方針を受けた社会教育関連事業としては、多少の予算額増減はありますが、事業内容については大きな変更なく、資料のとおりとなっております。限りある予算の中で、より高い効

果が得られるように、各事業に取り組んでまいります。

### ○委員長

この件につきまして、何か御質問等がございますか。

特段なければ、協議を充実させたいと思いますので、関連してコメント等あればそのときにおっしゃっていただければと思います。

それでは、次に移りたいと思います。

第8回、前回の社会教育委員会の開催結果について、事務局から報告をお願いします。

### ○事務局

第8回社会教育委員会では、次第2でいろいろな御意見をいただきました。続いて、3の報告を経て、4の協議をしていただきました。協議内容については、社会教育に関わる要素で、いただいた御意見に共通するキーワードとして、「つながり」や「コミュニケーション」、「学びの環境」などが挙げられました。全体の御意見のまとめとして、自己と他者のつながりの中で学びがあり、学びの場をつくること、居場所があることが重要であるとなりました。

続いて、社会教育に大切な考え方や視点では、様々な角度から具体例、例えば事例の大切さや、社会教育も時代とともに変化が必要であるなどの補足的意見をいただきました。グローバル化への対応や、多文化共生の視点についても御意見をいただきました。

委員の皆様からいただいた御意見を資料2-2にまとめさせていただいておりますので、そちらを御確認ください。

### ○委員長

前回の委員会では、社会教育ができることで、ウェルビーイングに向けて社会教育が関わっていく要素としてどういうものがあるか、グループワークを基に話し合っていたわけですが、その中で、資料2-2を見ていただくと分かりますが、やはりつながっていくとか、連携とかそういう言い方もありますが、他者とつながっていく、コミュニケーションをしていくことは、ほぼ委員の皆様が言われたことと私は感じました。それもあって、事務局でこのように資料をまとめてくださいました。

今日は、この説明とWGが3月末に開かれ、第8回の議論を土台にもう少しいろいろ考えてきたことがありますので、そちらを続けて聞いていただければと思います。

では、事務局でよろしくをお願いします。

### ○事務局

第3回WGについての報告をさせていただきます。3月末に開催しました会議の概要については、資料3にまとめさせていただいております。

はじめに、今回の委員会で協議していただく内容にもなりますが、第38期報告書の骨子案についてWGで御意見をいただきました。報告書の構成案は、資料にもあります「はじめに」の後、3部構成として、「静岡県における社会教育行政の変遷」、「ウェルビーイングの捉え方等について」、「ウェルビーイングの実現に向けた社会教育」とさせていただき、最後に「おわりに」で結んでいく形を考えました。

諮問題についての意見は、「報告書をどのような提言で結ぶべきかについて、事例等を示すことでつながりの現状を認識し、そこからつながりを持つよう伝えていくものとしてはどうか」などでした。また、「現状の活動を評価したり、振り返りをしたりするために、実践事例を分析したチェックシートによって自己を把握できれば」といった御意見から、チェックシートの内容を検討していただきました。

この実践事例ですが、チェックシートと分析シートの2つあり、これについて第3回WGでの御意見等を含めて修正したものを、今回の案として、皆様に協議をしていただきたいと思います。

以上、事務局から報告です。

#### ○委員長

WGでは、この報告書をどういう構成にするかということで、方向性を考えました。その際に、諮問題に対する答えというか提言は、先ほどの8回の議論を経て、資料3の中段のいろいろなものがつながってこれをメインに提言していったらいいのではないかということで、WGで話し合いをしています。

このWGの委員のお二方、補足があったらお願いしたいですが。会場から、委員、何かあったらお願いします。

#### ○委員

このとき出たかどうか分からないけど、ウェルビーイングが福祉とは違うということです。例えば、障害があるとか、家庭に事情があるとか、そういうものとは全く関係ないウェルビーイングという状態はいろんな状況があります。

さっきも、つながりという言葉がありましたが、ただ1人では絶対ウェルビーイングは難しい。どちらかという、それは自己満足でしかないけれども、ウェルビーイングは必ず仲間というか、多人数の中でできる状況だなという議論というか、語り合いがあったように覚えています。

#### ○委員長

副委員長、何かあったらお願いします。

#### ○副委員長

チェックシートを含めた報告書の考え方ですけど、分析をするという意味では、多少、研究的な

要素もあるのかなと思います。研究的といっても、論文を書く意味ではなくて、実践分析する意味で、このチェックシートは出発していると思います。

その結果、先進事例を出していく意味もありますけど、このチェックシートができ上がった後、各方面でぜひとも使っていただければといった意図も確かWGでは出ていたような気がします。

ですので、中身と同時に、方向という言い方がいいかどうか分かりませんが、チェックの仕方や分析の仕方も、この報告書の1つの目玉になればよいのではないかなと思って、後で提言というか説明があると思いますが、使い方を御議論いただければと思います。

## ○委員長

WGでこういうことを話しましたということで、全てこの後の協議で具体的に皆さんに御検討いただくものになりますので、早速、協議に入っていきたいと思います。

本日の協議は、今、大体お示ししました骨子案について、それから、この報告書をまとめていくに当たって、つながりという視点で事例分析を行っていくことについても、これでよいかどうか。また、その事例分析に関して、どのような方法が妥当かということで、提案しましたので、そちらの使い勝手を含め、いやこれではというのがあれば、また検討し直しますのでその御意見をいただければと思います。

再度というところもありますけれども、協議1でこの骨子案について、もう少し具体的に御検討いただけるよう、まず事務局から説明をお願いします。

## ○事務局

第3回WGでの御意見を踏まえまして、修正したものがこちらの資料になります。資料4-1の諮問問題は、「新しい時代における社会教育—社会教育を基盤としたウェルビーイングの実現に向けて—」になっております。問題の最後に、新しい時代における社会教育の果たす役割や、これからの社会教育の方向性について御意見をいただきたいとなっていることから、この役割や方向性が報告書の作成につながっていけばと考えております。

その役割や方向性について、どのような章の構成で進めていくか、資料4-2の案を作成させていただきました。2番の骨子案について、これまでの報告書では、諮問に対して、委員会は「はじめに」といった表現で作成をしておりましたので、今回も報告書の冒頭に記載していきたいと考えております。内容については、これまで委員会で皆様からいただいた御意見等をまとめる形で、委員長をお願いしたいと考えております。

これまでの意見ですが、3つほど挙げます。1点目は、「社会教育が生涯学習を支える教育を受ける機会を保障するなど重要な役割を持つ」という点。2点目は、「学校教育も大変な状況である中、社会教育も大変な時代であろう」という点。3つ目は、「学校教育が変わっていく中、社会教育も変わっていくことが必要であろう」という点を皆さんから御意見をいただいております。

構成を章とするかどうか今後の検討になっていくかと思いますが、事務局では第1章と記載させ

いただきました。静岡県における社会教育の変遷についてまずは記載し、(1) 社会教育委員会の諮問問題や審議会の審議テーマの変遷を主に述べていきたいと考えております。それが資料4-3になります。

社会教育委員会は、昭和20年ぐらいからあったということ調べましたが、社会教育行政に対して意見を述べる形で進められておりました。現在のように、諮問問題について提言をする形で確認できたものは、この資料にある昭和49年以降でした。これまでの諮問問題を年代や時代の流れとして捉え、時代を反映する形でまとめたものとなります。

細かく見ていきますと、第14期から17期は、「各世代対象の様々な社会教育への提言」という形でまとめられるのではないかと。第18期から23期は、「地域における生涯学習の推進に向けた社会教育への提言」という形でまとめられるであろう。第24期から28期は、「現代的課題に対する社会教育への提言」。さらに第29期から35期については、こちらの案を2つほど考えさせていただいたのですが、1つ目のまとめは、「子供を取り巻く環境の変化に対応した社会教育への提言」。2つ目では、「地域と学校の連携・協働による社会教育への提言」です。第36期から今回の38期までは、「誰一人取り残さない社会の実現に向けた社会教育への提言」という形でまとめられるのではないかと。ということで、事務局として、案とさせていただきます。

諮問問題が、この時代の背景を受けて変化していることを述べることから、(2) その変遷と中教審答申等や施策の変遷で、資料4-4で、国の教育振興基本計画をはじめとする社会教育関連法令や、答申、又は政策等の変遷をまとめていけばどうかと考えております。

(3) 県の教育計画の変遷として、資料の4-5を含めてまとめていきたいと考えております。資料がかなり多いですので、また見ていただきたいと思います。(4) 変遷のまとめで、(1) から(3)を踏まえて、骨子案の案にあるように述べていきたいと考えております。

具体的には、時代とともに教育の対象や領域が変わってきた。近年は社会教育を通じた地域づくりの視点も入ってきた。また、SDGsやウェルビーイングの視点がより一層求められるようになった。そして社会教育も、こうした変化に応じて変わる必要があり、全ての人に学びを届ける役割がある。こういう形でまとめしていきたい。この流れを受けて、新しい時代における社会教育を基盤としたウェルビーイングの実現に向けてという諮問問題を、この第38期では協議したという形でまとめたいと考えております。

続いて、第2章に入ります。第2章では1章を受けて、新しい時代における社会教育のウェルビーイングの実現について述べていきたいと思っております。

最近、多くの場面でウェルビーイングが取り上げられており、そのイメージや捉え方を統一、もしくは共有しにくいことから、(1) 本委員会としてのウェルビーイングの捉え方について挙げて、イメージ等を委員がある程度統一、共有した上で、この第38期で検討したことを述べていきたい。この部分については、国の第4期教育振興基本計画などの現状を含める形で、申し訳ないですけど副委員長にお願いしたいと考えております。

(2) では、(1) で述べた本委員会としてのウェルビーイングを成り立たせるための要素につ

いて、「ア」で、第7回の委員会で話し合われた内容をまとめていく形になります。具体的には、皆さんでグループワークをしていただいて出された要素を列挙し、それらを分析した結果を載せていく。この分析では、目的や目標、もしくは手段に分類できるのではないかと考えております。

「イ」では、この委員会の共通認識、「つながり」について述べていきたいと思っております。第8回委員会で出された御意見等を紹介していく。特に、共通した御意見が「つながり」だったことを中心に述べていきたいと考えております。

(1)、(2)を踏まえて、(3)新しい時代におけるウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割と方向性について述べていきたいと思っております。この部分については、この後、委員の皆様、役割と方向性について具体的に御意見をお聞きしていきたいと考えております。

役割については、WGでは、案として、「全ての人に学びの機会を保障、提供する」とし、方向性は「様々な主体とつながりを意識した学習機会を実践すること」となりましたので、これをたたき台として御意見をいただきたいと思っております。

第2章全体は、本委員会として、つながりを大切にし、人と人をつなげる、もしくは人と人がつながる場所、学びの場を提供していくことが重要であり、そのつながりの場がそれぞれの居場所となることがウェルビーイングの実現に必要なかなど、こんな形でまとめていければと思っております。

第3章、ウェルビーイングの実現に向けた社会教育については、第2章でまとめたつながりを1つの視点として考えていければと思っております。(1)今ある事業をウェルビーイングの視点「つながり」で見ようということで、役割を担うために、方向性に沿った学習となっているか、委員の実践で検証していければと思っております。そういうチェックシートを行うという趣旨でまとめていく。

(2)チェックシートの内容と活用のすすめで、資料5-1の案として示させていただいているチェックシートを活用して、事業を自己分析し、つながりの実態を可視化する。また、自己認識することで、今後の事業の改善等に生かしていければと思っております。

このチェックシートは、実際の例を(3)で紹介するとともに、先ほど、副委員長からありましたけれども、皆さんに活用してもらうような形で掲載できればと考えております。チェックシートの内容については、次の協議で御意見を伺いたいと思っております。

(3)既存の社会教育事例の分析で、資料6-1からになります。社会教育実践事例分析シートを用いて、委員の方々の実践事例を紹介していきたいと思っております。この紹介では、つながりのチェックシートとともに掲載する予定であります。その際、委員の方々の事例をテーマ別にしてまとめていく、あるいは分類分け程度にしていくのかについては、今考えているところです。

(4)様々なつながり方の提案と本委員会のまとめでは、分類ごとやその事例が行政向けなのか、もしくは地域の社会教育実践者向けなのか、など分類分けして紹介していき、これを提言としていきたいと考えております。

最後に、「おわりに」を構成で考えておまして、こちらは委員にお願いしたいと考えておりま

す。ここまでの報告を受けて、新しい時代に求められる社会教育の必要性や重要性、またグローバルの視点や多文化共生等への対応についても盛り込んでいければよいのではないかと考えております。

## ○委員長

私から補足しますと、「はじめに」、「ウェルビーイングの捉え方について」、「おわりに」と明確に表明がありましたけれど、WGの委員がそれぞれ分担するということ。第1章はかなり前から事務局で調べて、まとめてくれていまして、ここは事務局にお任せしてそこをベースに作っていきたいと思っています。

一方で、3章は協議いただいて、まずもってつながりでまとめていいか御意見いただかないと、というところもありますが、第3章については皆様が持っている事例を紹介する形にしたいと思っています。

提言はいろいろなパターンがありますが、「ウェルビーイングにしていこうよ」という考え方の中では、「新しくウェルビーイングのものをこうやってやりましょう」ではなくて、捉え方なので、今やっているものを、このウェルビーイングの視点で見ると十分できているところと、「いや、これからこうしていったら、もっとウェルビーイングになっていくのでは」と、その分析の視点を提示したいと思っています。

委員の皆様、これまで委員会で御発表を下された、皆さんがお持ちの事例ですので、ウェルビーイングの視点で分析してみて、御自身の実践事例が「十分なっていますよ」という場合でもいいですし、「足りないと思っている、それはこういうふうに今後していきたい」などを紹介していただけたらと思うわけです。

それを見た実践者の方は、「そうか、こういうふうに分析したらこういうところが足りなくて、委員会の中でも委員の皆さんがこうやって言っているのだったら、ここに取り組んでみよう」とか、さっき副委員長も言ってくれましたけど、そういう考え方を提示していく。

そこから、また新しい事業をやってみようと思う方はしていただければいいですけど、それをこちらからは、これでいきましょうと出すわけではなく、それぞれの環境の中の取り組みをこういうふうにウェルビーイングにしていっていかかですかと、提案していくつくりをしたいということです。

第3章に関しては、今日見ていただくわけですが、チェックシート、分析シートはこれまでの皆様が御発表いただいたもので構いませんので、分析したらこうでしたよというものを作っていただいて、それを集めて、ほぼ修正は入れずに、そのまま報告書に載せていきたいと考えております。

したがって、報告書を委員長が書くとかWGが書くとか、いろんな形はありますが、やはり社会教育委員の集まった会議で、それぞれが委嘱され、この場にお集まりいただいていますので、それぞれの方に参加していただいて、全体的総意のつながりについては1つまとめて提示しますが、それぞれのお立場のいろいろなお考えをこのシートの中に入れていただいて、発信できればと考えて

おります。そういう3章構成になります。

補足が長過ぎたかもしれないですが、この骨子案に関して、皆様から御意見いただければと思います。

特に、第2章の結論で、資料4-2の8ページ、ウェルビーイングの実現に向けて、社会教育が担える役割が「全ての人に学びの機会を保障、提供する」とし、その上で、新しい時代の社会教育の方向性は「様々な主体と「つながり」を意識した学習機会を実践すること」と、これまでの議論をまとめることについて、可能であればこれで御了承いただければと思いますが、御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

WGの委員のお二人、しつこく使って申し訳ないですけど、何かありますか。

#### ○委員

ありません。

#### ○委員長

では、WGとしてこれを提案したいということで、皆様から御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○委員

私は、社会教育という広い視野の中の博物館、美術館関係の社会教育に関係する事業なり、姿勢や考え方、そのようなものがどうでしょうかということで参加させていただいていると思います。18ページの教育委員会事務局組織の変遷（年度別）という表を資料4-5で作っていただいたわけです。

私の県教委での所属が一番はじめが昭和45年、あるいは48年ぐらいだと思いますけど、社会教育課にいまして、そこから文化財室ができたのが50年ですが、そこへ行きまして。その次に、文化課へ行きまして、昭和55年に美博準備室に、61年に県立美術館へ行きました。

社会教育関係で、博物館におけるボランティア活動といますか、そういう部分において、少し勉強したのが昭和50年代、あるいは60年代です。先ほどいただいた資料で、委員会のテーマの変遷もありましたし、あとは昭和40年代から、社会教育に対する考え方が何ページかにあったかと思えます。私は少し古い時代における社会教育といますか、博物館との関係で勉強したわけです。博物館、美術館はずっと続いており、その中で、ボランティア活動とか社会教育関係的な事業もあるわけです。全く離れているわけではなく、この社会教育委員会のテーマの変遷と同時に、美術館、博物館における社会教育、ボランティア活動等の活動が変遷しているかということ、私の個人的な感想では、昭和50年代、60年代の美術館や博物館におけるボランティア活動的なものが現在も尾を引いている気がします。

それと、全体を見て感じたのは、どちらかというと博物館、美術館におけるボランティア活動は、



個人が学ぶことが主であって、そういうものからだんだん個人で自己啓発や自己実現とか、場合によると、ボランティア養成で1年間勉強している。ちょっとした大学の授業並みのカリキュラムを組んで、1年間学習して、それでボランティアとしてスタートする。それがだんだん、本人が学ぶより、現在、ウェルビーイングでいろいろ議論されていますように、社会とのつながりの要素が主になってきているかなという気はします。そういうことを、この表を見て思ったのが1つです。

もう一つ、この表を見て感じたのは、18ページの事務局組織の変遷です。社会教育課はいろいろ係を持ってまして、成人教育から婦人教育、芸術、文化、文化財、あらゆるものが入ってまして、それがだんだん分かれて、青少年と一緒に、現在に至っていると思います。一番当初の社会教育課、昭和45年時代における、所管している事務分掌として何があったのか。

静岡県は以前、青少年教育が非常に早い時期から進んでいたというお話がありましたけど、青少年教育課が独立したというように、当初の昭和45年ぐらいの時代のものとか、あるいは青少年教育課が分かれたのが61年に分かれて、10年で区切るか何かで線を引いて、そのときどういうことを事務分掌しているのか。

私がそういうふうになぜ申し上げるかということ、県の社会教育行政が随分変遷してまして、この仕事が県庁に行くなど、あっちこっちに移っています。整理できていない部分がないかどうか。時間を経て見てみないと分からないので、10年区切りか大きな区切りで、そのときに社会教育課が何を仕事としていたのかを見ていただくといいのではないかなと思いました。

## ○委員長

確かに分けたら、そのとき忘れてしまったものとかがあったりすると、あれですよ。特に、全ての人という姿勢でこれから向かっていくわけなので、このチェックができたらと私は個人的に感じました。

そのほか、いかがでしょうか。

この後、つながりチェックシートは実際にやってみていただいて、それで感想とか御意見をいただきたいものですから、そこと併せて、この報告書のまとめでいいかどうか、チェックシートをうまくできないとなれば、報告書全体ももう少し検討し直さなければなりませんので、次に進みまして、また御意見いただければと思います。

次の協議題（2）「つながり」の視点による事例分析（ウェルビーイングチェックシート）について、事務局から説明をお願いします。

## ○事務局

ウェルビーイングのチェックシートの説明の前に、委員から貴重な御意見をいただきましたが、資料4を御覧いただくと、静岡県の教育行政等の変遷とともに、この事務局等々がどのような施策で事業を展開していたか、資料から細かく書けるところや、拾えたところを四角の枠の中に書いております。

WGでもお話ししたと聞いておりますが、漏れているものももしかしたらあるのではないかとこのところで、皆さんで資料を持ち帰っていただいて、ここにはもっとこういう事業やこういう事務局があったのではないかとこのことがあれば、言っていただければ補足させていただきます。

それでは続けて、協議2の説明をさせていただきます。資料5-1、チェックシートの案として、今回提示させていただきました。まず、このチェックシートの取り組みを企画運営する担当者が自己分析をするわけですが、この取組が他の団体とどうつながっているかが重要となってくるものですから、こちらのシートになります。第3回のWGでは、活用のすすめが資料5-1にあるように、つながり具合が緩やかであれば線を細くしていく。密接につながっていれば、太く塗りつぶす形でどうかという話です。こういう形式を中心に検討していただきました。

実際、WG後に、社会教育課内でこの事業について施行テストをさせていただいたものが、資料5-2と5-3になります。資料5-2の担当者が行ったときの感想では、評価する人の立ち位置がはっきりしない、真ん中に台形があって、「学習者・支援者」というつながりがある部分を御自分で場ということ・学びの場という形で考えて、このチェックを行ったということになります。そうすることで、チェックしやすかったという感想でした。

資料5-3のチェックシートでは、担当者および評価をする者が、チェックシートの左側の行政と丸で囲まれたところに自分を置いて、県の教育委員会行政の立ち位置で、中央の学習者・支援者の活動を外からの団体が協力者として参加していただいて、このつながりがありこの事業が行われたという資料となります。先ほどと評価者の立ち位置が違うことが生じ、曖昧な部分があったものから、資料5-1の案として出させていただきます。

なお、資料の5-4を1つつけさせていただきます。こちらはチェックシートの学習者、支援者という真ん中にある台形の中に※印が入っておりますけれども、この関係性の視点を表す資料で、用意させていただきます。この資料については、突然、出てきたわけではありません。第37期の委員会の報告でまとめていただいた資料を、この学習者・支援者という視点において書き換えていった、つながりを視点に書き換えていったものが5-4の資料となります。

さらにチェックシートでは、そのほかの大切にしたい視点や手段の分析もつけてありますので、こちらも丸で囲んでいき、御自分の事業を視覚化する形で考えた分析シートとなります。資料5-1では、修正を含めて台形の下に取組名を記載するような形としました。また、場という記載があったほうがチェックしやすいということで、学習者・支援者の台形の中に、丸で学習の場を1つ書いてあります。ここを起点として事業をして、評価者が自分の立ち位置を分かりやすいのではないかとこのことで、このチェックシートになりました。

## ○委員長

補足しますと、つながりチェックシート、シート本体は資料5-1の記入ができるものになります。これだけをいきなり、やってみてと渡しても、何のことか分からないので、事務局の説明した、活用のすすめを前置きとして、A4だったら表裏とか、A3だったら左右見開きの形で提示して、自

分自身の取組1つを台形に置いて、それ以外のところ、またその中でこうつながっているかを、矢印で示していってみようというものです。

強いつながりであれば太くという説明がありましたけど、弱いなと思えば細く。それも太いばかりがいいわけじゃなく、緩くつながっているからこそいいという場合もある。

それから、双方向であれば矢印を両方につける、取りあえず情報発信はしているなど言うてはいるというのは片方だけ矢印をつければいい。ということで、矢印が全部点線になっていて、好きな大きさにすればいいということになっています。いろんな取組を、1か所あるいはお一人の方がしているとしても、一つの取組についてどうかを書くこととなっています。

資料5-4がウェルビーイングなつながりはこういうものだと考えていますというものです。誰もが共に学び合うといったときのつながり方の視点であって、そういう部分に関しても、特に確認してみましようというのがチェックシートの下、そのほかの大切にしたい視点や手段の分析に要約してあります。

これらはすべて取り組んでいる方が、ある意味主観的にやっていくもので、こういう基準で判断しないといけないというのも、御自身が判断してやってみるというスタンスです。自分の取組を自分の価値判断でいいので、横のつながりという視点から見ようという提案をするものです。

皆さん、それぞれ事例をお持ちでいらっしゃると思うので、一つを真ん中に入れてやってみていただいて、これは分かりづらいとなれば、また作り直すので。

## ○委員

つながりチェックシートは分かりやすいと思いますが、取組名がとても難しくて。

## ○委員長

逆に。

## ○委員

自分であれば、何を取組名にするだろうかと考えました。子供の活動は、学校なのでそれぞれの活動などはたくさんあります。例えば、お茶発見隊みたいにすると、地域の施設とつながるし、公民館とつながろうと思えばつながりますが、小学校なのでそことつながって終わりになると思います。

このような活動がたくさんあり、人とつながりが限られている学校の場合は、「何を書くのかな」と思いました。私は校長なので、校長としての取組だと考えると、取組名はまた変わってきます。そこがすごく難しいと思います。

## ○委員長

なるほど。やはり取組名を書くのは難しい。

### ○委員

皆さんはどんな取組名を書くのか、教えていただきたいです。

### ○委員長

小学校の名前を書いてしまう、それも変か。

### ○委員

小学校は教育委員会ともつながっているし、公民館ともつながっているし、中学校ともつながっているし、地域の知り合いの方ともつながっている。PTAの方とももちろんつながっています。みんなとつながっているのだけれども、一つひとつが、学年ごとに下ろすと小さな桁になって、つながります。なので、どの立場の取組名にするのが難しいです。

### ○委員長

どのレベルでチェックするかということですね。

### ○委員

はい。今の例を見ると、読書アドバイザー養成講座という講座を持っていて、開く方がどうしていくかという話だと思います。では、同じように考えると、各学年、1つの単元の取組で書くのかなと思いました。ただ、その場合は、つながりの種類は小さくなりますがそれでもいいですが。

### ○委員長

事実を、今どうかを見るためのシートなので。そこは今、全部つながってないと駄目だとか、そういうのはない。例えば、それぞれでやって集めてみたら、弱い、強いがあり学校全体としたら、ここを強めたほうがいい。強めたほうが、その取組が全体としてよくなっていくのであれば、そこを考えていく。いや、今のままでいいとなればそうであるし。現状を、つながりの視点で明確にしてみるためのシート。

### ○委員

お話を伺いながら頭の中で思ったことは、小学校でも連携をしています。皆さんも、それぞれの立場がありますよね。例えば、それぞれの、課でも何でもいいのですが、いろんな取組でやっていて、それらを集めてもう一回見たときに、ここが弱いとか、強いとかが見えてくると思うので、そういう意味の活用のチェックシートということですね。

### ○委員長

例えばとして言ったのは、そういうことです。ただ、委員は校長先生だから全部見られるけど、それぞれの担当者もいるわけです。委員が全部分析するわけではなくて、例えば3年生の総合の学習の担当の教員がこれをやってみた。それでつながりを見てみたら、その担当者御自身も、ここはもっとつながったほうが、その活動が充実するかもしれないかなというのが見えてくれば、それは分析してよかったかなと。一個一個であっても、やった価値はある。けれど、集めたら集めたで、またそれは違う、統括というか、委員みたいな立場の方にしてみれば、見えてなかったところが見えてくる部分もある。そういうふうになったらいいかなと思うんですけど。ただ、みんなにこの視点で、自分のやっていることを見てほしいというのがベースで始まっているので、あんまり取組の大小も考えなかったんですけど。

**○委員**

言いたいことは分かります。

小学校は、出たとしても矢印1個かな。

**○委員長**

1個は1個でもいいですよ。

**○委員**

1個ばかりです。

**○委員長**

でも、そこもつながっているというので、いいと思いますが。

**○委員**

そういう捉えでよいということですね。

**○委員長**

あと、緩いつながりと言ったのは、例えば、地域の方に回覧板で、学校便りとかって回しますよね。あれは、ある意味発信です。学校はこうやっていますと、反応があるのかないのかも分からないけれど。そういうのも、地域住民の方とか、その他のところも入れていただいて、発信はしていますとか、つながろうとはしています。何か思い出せるものがあつたら、書いていただければという感じですけど。だから、全部に矢印が繋がらなくてもいいです。それは気になさらなくて。

**○委員**

例でやってみるとのことなので、取組名を何にするのか悩みます。

## ○委員長

そうですね。いや、取組名とここに入れたのは、さっき説明の中にありましたけど、行政の人に行政の取組を分析してもらったら、ここに行政とあったから、そこに立って分析した人がいる。

第37期のときから意識していたのは、自分が当事者になる。私が何かを支援してあげるとか、やってあげるのではなくて、第37期のときは貧困のことをやっていたけれど、貧困の人とか困っている人がいて、私たちは困っていないから何かをしてあげるとかという考え方ではなくて、いつ何時、自分だって困る人、貧困になるか、それは分からない。状況がそうさせているから、自分がいつも当事者と一緒の目線で助け、支え合っていく。そういう視点を持ちたいよねと考えていて。この分析のときも、分析する人は真ん中に立ってほしかったです。そのときは取組名とか書かないで、委員がスラッと書けるようなシートにしてみたら、ここに行政とか学校があると、そっちに立った人がいました。

言い方は悪いですけど、端から見たみたいになる。必ず、分析する人は真ん中の台形に自分を持ってきてほしいというので、それでは、ここに取組名と書けば、その担当者はここに来るか。自分にすればいいかな。

## ○委員

そう。私、最初に自分の名前を書けばいいかと思いました。

## ○委員長

名前をね。

## ○委員

自分の名前をここに入れるってどうでしょう。

## ○委員長

取組名とかではなくて。

## ○委員

取組名、何を事例にと思ったときに、あれも事例になる、これも事例になる。放課後、こんなこともやっている、あんなこともやっている。私は支援者側なので、総合の授業1つとっても、3年生でもやっている、4年生でもやっている、5年生でも6年生でもやっている。では、どれにしようかなど。でも、私はコミュニティースクールのディレクターとしてここに来ているから、私の名前がいいのではないかな。私だったらというところで、取組名ではなくて、名前がいいのではないかなと思ってしまったところがあって。私としては、5年部主任、何さんとか。

○委員

そのほうが。

○委員

そちらのほうが活用しやすいのかなと思ったところがありました。いかがでしょうか。

○委員長

委員、どうでしょう。

○委員

どことつながっているのかというほうが書きやすいです。取組名を、何にするのかで全然違ってきてしまいます。

○委員長

今、人というか当事者を書くとなりましたが、そのほうが書きやすいですか。

○委員

なかなか、このチェックシートを使って、可視化して、自分のどこが弱いのかを見るのは、すごくいいアイデアだと思います。今言われたように、先ほどの取組名とか自分を真ん中に置くということだけ。例えば委員でも、先生を真ん中に置いても、いろんなことをやっているから、これはつながりがあるけど、これはつながりがないというものが結構あると思うのです。

私の意見としては、例えば真ん中に置くのは御本人さんでも、御本人さんが取り組んでいる活動とか事業とかでやったほうが、すごくイメージが湧きやすいのかなと思いました。

○委員

2つ感じたのは、1つは美術館とか博物館が、今大事にしなくてはいけないのは、ステークホルダーという言い方です。ステークホルダーという言葉の意味が、よく分かってないところがあるのですが、周りの人、館の職員で働く人、お掃除で来る人、アルバイトで来る人、入館者、あるいは行政なり、機材を入れるなり、関わるすべての人を大事にして、そういう人から認められるというか、評価を受けるのが大事だという考えです。学校なのか校長先生なのかでいくと、仕事なのかボランティア活動なのか、その辺がいろいろだと思うのです。美術館、博物館のステークホルダーは、働いて給料をもらう人もいるし、趣味で来ている人もいるし、いろんな立場です。今、例で出ているのは、学校の業務なのか、仕事なのか、ボランティア活動なのか、何なのかということがあると思うのです。

私の個人的なことの1つの例を申し上げますと、いろんな作品があるから調べに来てくれとの話から行きますよね。若干遠いところだと例えば交通費が5,000円とか1万円かかる。「先生、今日はありがとうございました」と手土産だと言ってお菓子をくれた。行く途中でお昼も食べたら、ちよっとお金がかかった。それで、お菓子でいいにした。それで、「また来てくださいよ」と言われて、同じようにまた行くのは何なのかという感じがするのです。ボランティア活動なのか、知的興味があるというか、あなたはそういうことに関心があるから、調べるものがあるってうれしいでしょう。何回か行っていまして、先方も、仕事でしたら交通費をいただくとか、日当をもらうとか。あるいはそうでないにしても、やはり電車賃ぐらいは何か頼むならあってもいいじゃないかなと思うわけです。

結論は何かというと、これは道楽なのかなというのが、今の感じですか。そうすると、勉強の面もあるし、社会貢献の意味もあるし、趣味もあると、いろんな要素が入ってきているのです。

ですから、こういうチェックシートにしても、利益相反者というか、上下関係とかいろんな関係が複雑に絡んでいるので、とても考えにくいのではないかなという気がしたのです。ただ、中心を美術館、博物館とすると、給料をもらってやっている人もいるし、趣味で来ている人もいるし、学校の生徒もいるし、いろんな人が入ってきているから、美術館とか学校とすれば、いろんな立場の人が関わって、それぞれ交流をしていくことなのかなと思ったのです。

#### ○委員長

経済的とか、立場とか、いろいろあるとは思いますが、今回、これは純粹につながっているかどうかだけで、これは分析する形にはしてあります。ここの真ん中に入れるものを、副委員長、どうですか、どう入れていくか。今、人とか事業とか、いろいろ出ていますけど。

#### ○副委員長

そう言われると、どうしたらいいかなという感じですか。事業以外でうまく出てこないのですが。具体的に、そういう事業をお持ちの人がいるかどうか分かりませんが、研究とか研修とか、そういったものも考えられるのかなと思っています。

#### ○委員長

真ん中に入れるものがということ。

#### ○副委員長

そうです。ちょっと時間ください。もうちょっと整理してから発言します。

#### ○委員長

すみません、急に振ってしまって。



## ○委員

私も、委員のお話伺いながら、学校教育を入れてしまうと、分かりにくくなるのではないかと感じました。そもそも社会教育を今、論じていると考えると、学校教育を真ん中に置こうとすると、そこには無理があるだろう。私たちが出そうとする事例は、なかなか当てはまらなくなるのかなと感じました。

私たちがやるとしたら、学校という囲みの中から、他とどうつながってきたかはやれると思います。私たちが真ん中に置こうとすると、学校教育の教育課程外の社会教育の、そもそもが当たらなくなってしまうのかなという気はしたものですから、まずそれが1つと。

もう一つは委員のお話に加えて、自分としては、つながりチェックシートを見たときに、中心に矢印が集まっていくだけではなくて、イメージとしては、それこそ学校の立場の人間ですから、この丸をつなげるような、あるいは蜘蛛の巣状に線が引かれるようなイメージを持っています。それを自由に書き込めるようなチェックシートになっていると、さらに活用が可能かなとは感じました。

## ○委員長

ありがとうございました。

## ○社会教育課長

今、いろいろな御意見いただいている、私が思ったことをお話しさせていただきたいですけど。

まず、この諮問をお願ひするときのイメージは、社会教育が時代の変化で変わってきている中で、もう一度見直したいという思いがあつて。そのときの発想は、私自身が教育行政に携わっている人間なので、教育行政の視点で、自分たちが持っている事業はこのままでいいののかの見直しをしたいというイメージでした。

このつながりチェックシートも、行政の視点で、自分たちの事業を見直すことであれば、それぞれの事業担当は、ここでやったように書けると思います。ただ、その思いが至らなかったのは、委員がおっしゃったみたいに、全体をデザインする人ではなくて、その中のプレーヤーとして活動している人たちが、このチェックシートをどうしたらいいのかとなると、この中に入ってしまうので。

もしかしたら、チェックシート自体は同じものでいいのかもしれないけれども、教育行政、事業全体をデザインする立場の人と、その中で活動している人は場合分けをして、このチェックシートをどう使うかを分けて考えたほうがいいのかと、今、聞いていて思いました。

あと、委員の方々からおっしゃられたとおり、学校教育がどこまで入ってくるのかとなると、学習者と支援者が、立場が入れ替わりながら、お互いに学び合うのが社会教育だとすると、学校教育は、基本的にはそういうものではなくて、教育者と教えられる側という関係の中で行われていることがほとんどだと思いますので、もし学校の立場で書かれるとなるとすると、限られたものになっ

てくるのかなと思います。

## ○委員

この図を見ると、ウェルビーイングが、どっかの機関が単独で支援して実現するものではないと言えそうです。例えば行政がウェルビーイングの実現を支援するだけではなくて、学校でもウェルビーイングの実現を支援する。企業や法人でも、ウェルビーイングの実現のためにやることもある。もちろん、各種団体や組織もウェルビーイングの実現に活動することがある。この図から一番読み取るべきことだと思います。

行政だけがウェルビーイングを支援するにはどうしたらいいかと考えるのではなくて、ほかにも声をかければ、ウェルビーイングはさらに実現しやすくなるのではないのでしょうか。

例えば手前みそな話ですけれど、私が今やっているニュースとか情報の仕事は、これまでは少し人ごとだったのですけれども、ウェルビーイングの実現につなげるという意味で、もしかしたら重要な役割があるのではないかと気づいたのもこの図を通してでした。だから、私の場合は、真ん中の長い四角には、ニュースや情報の受発信を入れて、できればこの周りの丸を、さらに大きく囲む丸の中に自分の仕事があるのではないのかなと思って、メディアで働く自覚を思いました。

ですから、取組名って、何とか事業の何とかではなくて、ウェルビーイングの実現のために自分ができるようなことを言語化して、真ん中に入ればそれでいいのではないですか。役所の人は短文を入れたがるかもしれませんが、緩やかなものでいいような。ざっくりしたものでいいと思います。

## ○委員長

ありがとうございます。

## ○委員

4月から長泉町社会福祉協議会に戻りまして、人事交流が終わりましたので、長泉町から参りました。今日午前中、生涯学習課の方々と社会福祉協議会で話をしたところ、ほとんど事業の内容ですとか、目的が似ているねという話をしてまいりました。

今、お話を聞いていましたところ、つながりチェックシートを社協の福祉教育の観点でいくと、エコマップという表現をさせていただいています。中心に来るのは、その物自体が誰のために、何のために。誰のためにこの計画をつくるのか、その対象者が福祉の観点ですと中心に来ます。どんな方と連携することによって、その人が孤立をしない地域づくりを目指すなかで、エコマップという使い方をさせていただきます。

今回のつながりチェックシートにつきましては、社会福祉協議会からの視点ですと、人と環境に分けられているというイメージを持ってしまいます。もう少し皆様からヒントをいただけますとたどり着けそうですけど、自分の立場ですと社会福祉協議会でするので、取組名が地域福祉活動と書か

せていただきたいと思います。福祉活動ですけど、各区単位で、子供から高齢者まで、みんなでつながりのある地域づくりを目指して、公民館等を拠点として活動しましょうという事業です。さらには福祉活動自体はやり方、方法ですので、何をやる、どんなことをやるかとなったときに、取組名の括弧で、災害と書かせていただきたいと思います。

今現在、能登半島支援に、社会福祉協議会、関連する団体、地域の方々が支援に行っています。現地のほうに私も数週間入らせていただきまして感じているところは、やはりつながりがある地区は災害関連死も低いですし、日頃からのつながりが必要だと、こちらに戻ってきてからも発信をさせていただいております。

そう考えますと、自分がもし社会福祉協議会の立場でこのチェックシートをして、どこにつながっていないかが明らかになることをしていくとしたら、実は学校が一番細くなります。自分の立場で言うと細くなる。理由としましては、学校防災と社会福祉協議会で言うボランティアがとても細いです。本来、重要である子供たちが主体的にボランティア活動をする、ひいては災害時に地域のつながりを考えて、子供たちが主体的に活動することを、このつながりチェックシートを見て、自戒を込めて、今話をさせていただいております。

ですので、小学校、中学校と社協もつながらせていただいたり、公民館の活用、行政とのパートナーシップをもっと深めていったり、PTA関係に関しましてはほぼないという状況ですので、もっとネットワークをつなげていき、社会教育、双方の教育の場を今後もつくっていったらいいのかなと感じております。

## ○委員長

副委員長、お願いします。

## ○副委員長

いや、さっき研修と言いかけて、どうしようかなと思ったのは、辞めたところですが、常葉大学の社会教育実習が使えるかなと思っていました。この場合は、真ん中の学習者は大学生です。学習支援者は大学の事業ですから、大学の先生、「社会教育実習」という科目の担当教員です。貴課青少年育成班のほうが詳しいかなと思いますので、もしあったら補足していただければと思います。

県内の、主に青少年教育施設をはじめとする社会教育の施設を利用した実習で、建前は大学から派遣という形になっています。年間100人ぐらいの実習生を派遣します。併せて、県としては、青少年の野外教育スタッフ養成事業とオーバーラップしているので、行政等からも、派遣を依頼して行っているのもあります。

県立4施設もそうですし、国立中央青少年交流の家もそうですし、静岡市や浜松市の青少年関係の施設にも派遣しています。あと、生涯学習関係、静岡市のアイセル21も実習先です。

このポイントは、約10前後の施設が、一堂に会して、一緒になる機会があります。募集や成果発表も行っています。その場を大学が提供しています。

この矢印に直接当たるものではないですが、野外教育スタッフ養成事業などに関して、子供を対象としたキャンプを行って、その指導者を養成しているものでもあるので、行政からは、その子供のキャンプの募集で、各小中学校のほう、中学校はそうでもないのかもしれませんが、派遣というか募集の依頼を出していますし、各施設からも依頼を出している。そういう活動をしているので、四角からではないですけど、丸から丸へ関係をつくっている形も、1つのつながりなのかなと思っていました。少しうろ覚えの部分が出てきて、不正確な部分があるかもしれませんので、担当課で補足していただければと思います。

こういう人材育成の部分でも、ウェルビーイングになっているのかどうか分かりませんが、そういったつながりがあるのかなと思いました。

#### ○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

#### ○委員

皆さんの御意見を聞きながら、つながりチェックシートを何となく埋めていたときに、どうしても地域住民、地域の人、自治会なのか町内会なのか御近所なのか、地域の人を絶対に入れたいところで。それが、その他の学習者とか学習支援者を含むところに該当するのでしょうかけれど、私はその他の学習者、支援者ではなくて、地域の人というイメージが強くて。その他の学習者、学習支援者では、なかなか地域の人への印象が薄い。学習しに来ている人でもなければ、学習を支援しようと思って来てくれているわけではなくて地域の人たち、ただそこにいてくれるだけでいい人たちだと思っていて、地域の人たちに来てもらって、関わっていただいているので。

5つ、周りに丸がありますが、その1つに地域住民を入れていただけると、すごくありがたいというか、やりやすいというか、そんなイメージがあります。

#### ○委員長

その他に入れるよりも、地域を1個作るということですね。

#### ○委員

地域に住む人みたいな。

#### ○委員

私もチェックシートは作らせていただいて、NPOで来ておりますので、その中の事業の1つとして、街中だがしや楽校を入れさせていただいて。これは本当に分かりやすく、子供たちを地域や、近所または商店街の方々に御支援をいただいて、子供たちにワークショップ等を開いて、子供たちと地域、高齢者の方々も含めてつながりながら、子供たちが学習していく場ではありますけど、

それ以外の参加されている方々が、全員がまた子供から学んでいるところがありますので。このチェックシートは入れやすいなと思って、作ったところです。

ただ、お話にありましたように、私も地域住民をどこに入れるかなど、最初に考えたところでありまして。場所は三嶋大社さんを借りているので、三嶋大社さんだったり、地域の商店街だったり、それ以外にも地域の方々が、子供たちの活動しているところを見に来てくださるということでも支援につながる。それも学習になります。そういうことを考えると、地域住民をその他では何かもつたないような気がしました。

あともう一点。学校の中に大学が含まれていないのが、地域性の問題があるのかなとは思いますが、三島には大学がありますので、大学生のボランティアだったり、大学生から学ぶこともありますし、子供たちに教えてもらったり、イベント自体と一緒に運営してもらうこともあるので、学校の中に大学も含めてもいいのではないかなと感じたところです。

入れてみると、今年も8月25日に開催予定ですけど、外国人の方々にいろんな遊びを教えてもらおうということで、外国人の方々に入ってもらおうとか、特別支援学校も薄かったところで、一時来ていただいて、いろいろやっていただいたこともあるのですが、そこら辺も薄かったなど、はっきり目に見えるようになって、また次につながるかなど。本当、可視化することは大切だなと感じたところです。

もう一点、先ほど、報告書の骨子案の（1）の中で、私、言いそびれてしまいましたが、9ページの中の（3）の上から10行目、「だがしや学校」を入れていただいておりますが、この学校は、学ぶという字が楽しいという字です。学校とは違う場で、楽しく学ぶところですから。楽しく学ぶと書いて「楽校」と読んでいますので、そこを訂正していただけるとありがたいです。

## ○委員長

時間もあれなので、何点か確認したいのですが、取組名とは書かずに、四角い枠はあってもよいですか。あと、学校から始めたほうが書きやすいが、真ん中に入れずに書いたほうが書きやすいか。

## ○委員

先ほど、様々な方の御意見を伺っていくうちに、そうかという気づきが非常にありました。先ほど発言したときには、学校の位置がここだと、私たち、どうしても真ん中に入りたくなってしまうなと思っていましたが、藤ヶ谷課長から、プレーヤーなのか学ぶ人なのかを考えたときに、常に、学ぶという個人というか、その対象を真ん中に置けば、ここに学校があっても特に問題はないなと感じましたので、学校の位置としては、先ほどの意見とは少し変わってきましたので、お伝えしたいと思います。

## ○委員

皆さんのお話を聞きながら、5ページをもう一度読み、原点に戻ってみました。

真ん中のつながりの視点によるチェックシートと分析シートについて、今やっている活動をウェルビーイングなものへ変えていくためという視点で捉え直す。そうすると、どの活動を置くにしても、自分のやっている一番初めに浮かんだものを四角に置けばいいのかなと思いました。

## ○委員長

このチェックシートを、今後、提言・報告書の中で出していくときに、1人でも多くの方にこのチェックシートをやっていただきたいというのがあって。そうすると、やってみる方々は、いろいろな方がいらっしゃるの、こんなにつながったことないよとか、活動自体やったことないよと感じて、でも、実はやっている人もいるかもしれない。山ほどやっている人もいるかもしれない。そのとき思いついたものを入れて、それでこのウェルビーイングの視点でつながるといってそのことを捉えてみる。そのこと自体をやっていただきたいと思うものですから、1つでもというところで、その1つが書きやすいものにはなれたらなと思っております。

たくさん持っている方を逆に想定してなくて、とにかく、一度やってみていただければと思ったものですから、こういうことになったわけですけど。皆さんにも御理解いただけて。

幾つか、福祉や副委員長のものや、委員の方々に出していただいた中で、イメージできたかなと思いますので。これに地域住民があったほうがいいですね、私もちょっと思ったので。

静岡県、地域教育でも、これまで社会教育が推進してきたところもありますから、それを入れた形で少し修正を加えて。原則、この形で進めさせていただきたいと思います。

実は、もう一個あるので、そちらを事務局で説明をお願いします。

## ○事務局

資料6-1からが、もう一つのチェックシートの分析シートになります。この分析シートですけど、委員の方々の実践例、現在やっていたものを記入していただいて、報告書にできればそのままの形で掲載させていただきたいと思っております。こちらの分析シートも、課内の事業で、先ほどのつながりチェックシートと同様にやりました。その結果が資料6-2と6-3に載せてありますので、それを御覧いただいて、御意見等いただくことになるかと思っております。この資料の中段、つながりチェックシートの矢印を具体的に説明したものがここに入ってくるかと思っております。下段に、活動に関わることで学習者の意識の変容、例えば自己肯定感や有用感が高まるであるとか、つながりを意識したことで安心感や協働が生まれるなど、もしくは地域づくり、つながることで地域連携等が生まれる。このように寄与することを、学習成果の項目で書いていただきたいなと思っております。

最後は事例を、自己分析として、つながりについて、今後の方向性を記入していただく。こうして事例から学ぶというか、事例を分析という形になっていくかと思っておりますので、資料6-2と6-3にはないですけど、お示しする案では、つながりについての今後の方向性を加えたシートとなっております。

このシートは、事例を見習ってもらうものではなくて、御自分の事例をこの資料から参考にしていく、または同じ課題や可能性を知る形としていく形になります。

今回の委員会では、分析シートの様式について御意見をいただきたいということで、修正した分析シートを、またメールにて委員の方々にお送りして、実際に作成していただく形になっていきます。この場でやっていただくわけではなく、記入をするとしたら、こういう修正点があるであろうという御意見をいただければと思います。

## ○委員長

すみません、私は進行が下手で、あと10分になったので。説明を補足しますと、皆さんに報告書に載せるものとして作ってもらいたいものが、このチェックシートです。特に、委員にはすごく丁寧に説明していただきましたけど、その説明は、資料6-1のシートに書くと。委員の例では、学校との課題をおっしゃってくださいましたよね。そういう課題を方向性を書いていくことで、このチェックシートは矢印しか書いていないから何だか分からないけれど、それはこういう事例ですよということで、こちらに詳細を書いてください。

理想的には、見開きで1つの事例が報告書で提示されて、「こういう取組があるのか。でも、同じことを自分たちやっているけど、この人たちはこういうふうにつながっているのか。やっている人は、こんな課題を持って、こうしようと思っているのか」。それを見習えではなくて、自分の取組は、同じ名称のものをやっているけど、ここにつながっている。でも、ここは足りなかった。でも、同じような課題意識を持っている。自分たちはこうしてみようかなというヒントになるものを提示していく。

実践例を委員会としてあえて分類したり、評価をしたりすることは一切しない。そこもウェルビーイングかなって思っているいので。この多様性の中で何を重要視していくか、やはり活動の当事者の方にお任せするけれど、このやり方をすると、それを見出していけるのではないですかというのを提示していきたい。

ということで、分析シートを、こういうふうに提示させていただきました。つながりの分析のところの、書きたいことは1つでも2つでも3つでも、何個と限定しませんので、強調したいつながりの分析を書いていただければと思います。あまり時間がないですが、書けそうですか。やってみていただいて、これは無理だとか、どうするのという質問があったら、事務局に御連絡をいただいて、事務局と相談で、少しやりやすいものを作って、正式に皆さんに書いていただくものを発信したいと思います。また、ここ一、二週間で時間ありましたら、やってみていただければと思います。

記入に当たって、何か御質問等あれば、今受け付けますが、よろしいでしょうか。

## ○委員

分析シートをどうするのかなと思っていましたが、これはまずは私たちがこのチェックシートをやってみて、どうだよというものを報告書につけられる。実際にこれを見て使う人は、各自が自

分の位置や立場で、活動する内容を真ん中に置いてみて、一番理想的には、みんな線がつながっているのいいのかなというところがあると思うのですが、それを見てつながっていないところは、ここが弱いねというところを判断して、この分析シートに書くということですよね。

私が思ったのは、今回の私たちの提言の中で、こういう分析シートを使って、皆さん、それぞれ自己チェックをして貰う。今までの社会教育委員会の提言したことや過去の経緯とかを見ますと、ほとんどやるべきことはやってきたのかなと。子供の貧困でもそうですし、障害者の人たちについても、いろいろと提言してきています。

でも、これは、私の個人的な意見ですけど、個々には多分完結している。例えば障害者はこうだよとか、子供の貧困についてはこういうことをやったらいいよだとか。その中でも、少し周りとの連携、つながりは、今までの報告書の中で述べていると思いますけど、今回はつながりがメインですので、この報告書の中で、どうしたらつながっていくのかというところが、報告書のメインテーマになっていくのかなと思っておりました。そんな中で、気になったのが、皆さんそれぞれ報告書の中で、自分はこんなところにつながっていて、こういうところが弱いよと分析シートで書かれると思いますけど、この報告書の中では、つながりがこれを見て、学校関係や公民館だとか、いろんなところにつながりが強いといった良い点がそれぞれ出てくれば、ここを自分も試してみようかなという気持ちになると思います。

もし、皆さんの中で、それぞれの良い点が出てこなかったら、少しつながりのアドバイスみたいなものも必要なのかと。つながりがもし弱かったら、ここのところはこうしたらいいよというところを、報告書に入れるのかどうなのかなと思ったものですから、そこを発言させていただきました。

## ○委員長

全ての事例で、ここは欠けていたみたいになったときってことですよね。

## ○委員

ここところが自分が足りなかったら、ここはどうなるかなと、報告書を見ればアドバイスになるようなものも取り込むのかどうなのか。

## ○委員長

検討します。

WGでは、委員が発表された、自主夜間教室を事例として取り上げて、入れたいと思います。そのこととも関連するのと、多文化共生やグローバルがあるので、夜間中学に外国籍のお子さん、結構通ってらっしゃることがありますので、自主夜間教室のこととも関連して、県立夜間中学の事例は、WGとして事業を、分析シートを出したいと思っています。

あとは、チェックシートの下の大切にしたい視点や手段の分析というキーワードは、資料5-4も、つながるときのヒントにはなってくかなとは思いますが、やれている、やれてないは別として。



ただ、今の委員の話で、ちょっと検討します。「おわりに」に入れるとか。でも、あまり言い過ぎて、そればかりやればいいみたいな報告書になってしまうと、緩いつながりは駄目とかという話ではないので。その出し方は難しいかなと思っていますが、WGはまだあるので、検討いたします。

では、今日のところはこれでよろしいでしょうか。

今日もいろいろな御意見、本当にありがとうございました。進行がうまくなくて、十分意見を吸収できない部分がありましたことはお詫びします。

本日、いただいた御意見を基に幾つか修正をいたしまして、委員の皆様には、実際に行っていたきたい分析シートを送付いたします。送付の際に、いついつまでにと期限も示しますので、お忙しい中、申し訳ありませんけど、シートへの記入をして、事務局へ御返信いただければと思います。

次回以降のことを考えて、第10回で皆さんの事例をお示しできるように、準備を進めてまいりたいと思います。本当に熱心な御協議、御意見、ありがとうございました。あと、10月までの間に報告書作成となりますが、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日の協議はこれで終了いたします。

最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

## ○事務局

連絡事項は委員長が言われたことも含めて3点ございます。

1点目は、事例分析シートをお帰りになって時間があるときに確認いただき、修正が必要であれば5月上旬までにご意見をいただきたいです。それをもとに、チェックシートを修正したものと事例分析シートを委員の皆様にもメールにてお送りいたします。期限については、送付時にお示しいたします。

2点目は本委員会の会議録については、本日から遅くとも3週間後までにメールにて委員の皆様にも送らせていただきます。御自身の御発言の部分を御確認いただきたいと思います。こちらも御協力をよろしくお願いいたします。

3点目は、次回の第10回委員会の日程です。次回は6月28日（金）、場所は別館9階第2会議室です。

その他、御不明な点等ございましたらいつでも事務局まで御連絡ください。

## ○委員長

それでは、以上を持ちまして第9回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。本日もありがとうございました。